

同志社大学

2011年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2012年2月3日提出

所 属	職 名	氏 名
経済学部	教授	新関 三希代
研 究 題 目	行動ファイナンス—日本と中国株式市場に関するアノマリー分析—	
研 究 成 果 の 概 要	<p>これまで、ファイナンス市場における価格決定メカニズム、とりわけそのリスク（不確実性）について、理論的・実証的に研究を行ってきた。その際、「投資家は全て合理的に行動している」と仮定してきたが、この伝統的ファイナンス理論における仮定では、現実の市場メカニズムを説明するのに限界がある。実証的に、いわゆるアノマリーの存在が確認されているのだ。</p> <p>今年度は、株式市場において無償・有償増資時において超過収益率が大きくなるという証券価格の歪み（アノマリー）について分析を行う。とりわけ、株式分割後の株価上昇傾向や近年割合を増している第3者有割増資が株式市場に与える歪みについて、中国のデータを用いた実証分析を行った。</p> <p>結果、発行価格がディスカウント・プレミアム状態である要因を分析するとともに、これらを修正して得られた超過収益率が増資アナウンスメント後も正に推移するというアノマリーが検証された。</p> <p>このアノマリーの要因は、投資家と企業の情報の非対称性や大株主によるコントロール・プレミアムによるものと考えられ、実証的にも検証された。</p> <p>今後は、日本のデータを用いた同様の実証分析と比較、検討を行い、研究論文「第3者割増資に関するアノマリー—日本と中国株式市場の実証分析—」（仮名）として公表する。</p>	